『絵巻物による日本常民生活絵引』英訳の課題と問題点

ジョン・ボチャラリ
John Boccellari

神奈川大学の21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の一環として，日本常民文化研究所発行の『日本常民生活絵引』（新版，全5巻，平凡社，1984年）の英訳出版が企画されている．絵巻などを美術作品としてではなく，中世日本人の生活様式を理解するための手がかりとして扱うこの『絵引』は極めて史料価値の高いものである．英語で出版することによって，日本の民俗が広く知られ，文献資料に偏らない新しい知識体系作りの助けとなることが期待されている．

大変野心的な企画であるだけに，それにまつわる困難も多いことが予測される．英訳する，ということの問題点は何であろうか．ここでは，『絵引』のごく一部を試訳し，その中で見えてくる問題を指摘してみたい．先ず，『日本常民生活絵引』1巻の「扇面古写経」の最初の二つの項目を載せる．その後，試訳を紹介し，文中に番号を付けて，それに沿って問題点を挙げることにする．

I　原　文

1　袿とかずき（4頁）

左の女は袿（1）をかぶり，小袖に袴をつけ，高足駄をはいている．中央の女は着物の包をいただき，小袿を着，平足駄をはいている．右の女は市女笠をかぶり，小袿を着，左手に茵と思われるものをかけ，草履をはいている．このような服装は当時の女たち一般の外出時の服装であったと見られるのである（2）．袿は「うちぎ」とよみ（3），『和名抄』（4）に婦人上衣也とある．袿には大袿と小袿があり，大袿のほうは大臣の禄や賞にたまわったといわれる（『倭訓栞』）．伏すときに着る衾の如きものであった（『筆の霊』）．袿は女ばかりでなく男も着るもので，袿の裏を去って単衣にしたものを「ひへぎのすずし」といった（『雅亮装束抄』）．近世（5）に多く用いられた打掛は袿の伝統をもつものであった．また小袿の長さは小袖より長く，『台記別記』には，藤原多子入内のとき綾掛，平絹掛などを一八国に所課したことが見えているから中央政府からこうしたものを貢納させることもあったわけである．袿は家の中で着たばかりでなく，外出のときにも用い，時にはこれを頭からかぶることもあった．それを衣かずきと言った．しかし後には袿ばかりでなく，小袖などもかずきに用いることが見られ，その遺風は今日も各地に見られる（6）．

2　女の旅装（5頁）

水をのむ女は旅装をしている．市女笠をかぶり袿を着，かけだすきをかけ，脛巾をつけ，草鞋をは

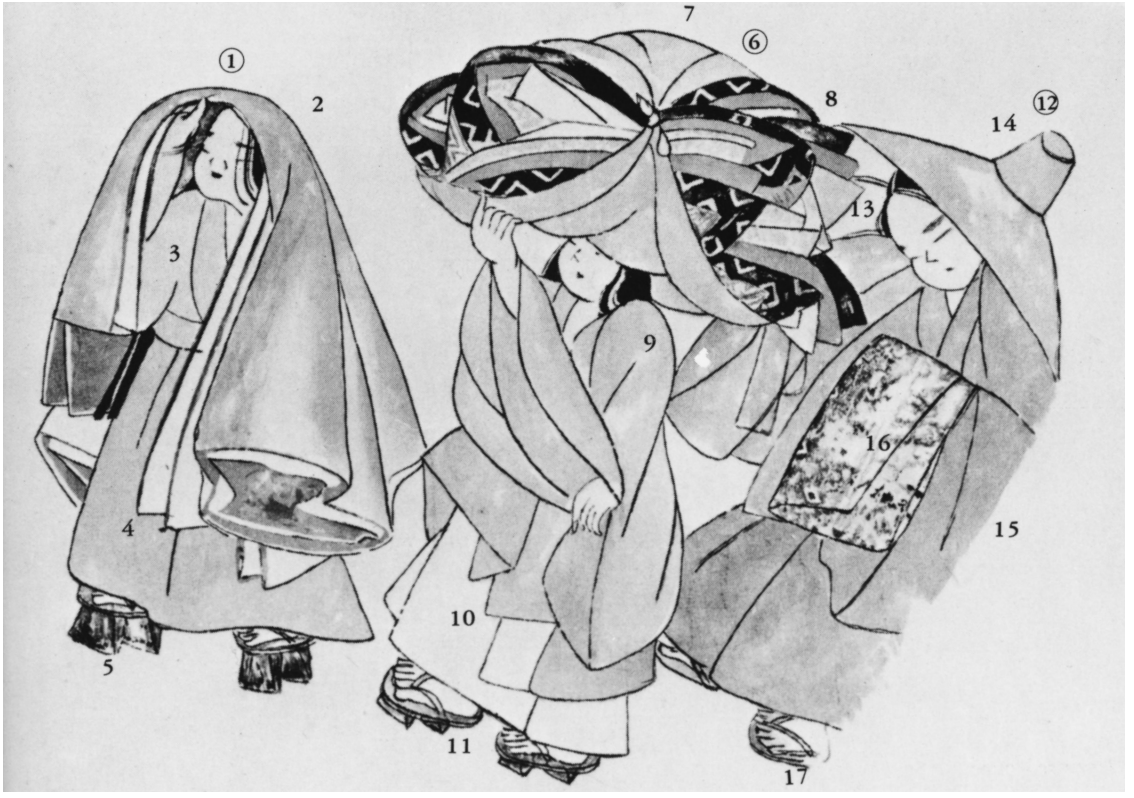

図1　袿とかずき

いている．こうした旅装は歩行によって遠くへ出かける場合の女の一般の姿であったと見られる．女の背後には辻神の祠がある．板屋根の小さなもので前に幣がおかれており，祠の横には木の忌垣がある．また祠のまえに自然石がたててあるのは何を祭ったものか明らかでない（7）．このような祠は辻のいたる所にあったもので主として道の神をまつったものらしい（8）．

図2　女の旅装

II 試 訳

1) *Uchigi* and *Kazuki*

The woman on the left covers her head with an *uchigi* (1), wears a *kosode* and *hakama*, with *takaashida* on her feet. The woman in the middle carries a bundle of clothes on her head, wears a *kosode* with *ashida*. The woman on the right has an *ichimekasa* on her head, wears a *kosode* with what seems to be a *shitone* over her left arm, and on her feet wears *zori* on her feet. This apparel was the usual dress for women of the time when outside the home on everyday occasions. (2) 袿 (3) was read *uchigi*, defined in the 和名抄 (4) as a woman's outer garment. *Uchigi* can be divided into *ouchigi* and *kouchigi*, and it is said *ouchigi* were granted by state ministers as salaries or rewards (倭訓栞). They were garments like those used when sleeping (筆の霊). *Uchigi* were worn by men as well as women, and when the lining was removed it became a light coat called a "hiheginosuzushi" (雅亮装束抄). The often-used *uchikake* of the early- modern period (5) belongs to the tradition of *uchigi*. *Kouchigi* were longer than *kosode*. In the "台記別記" it is written that on the occasion of Fujiwara no Tashi's reception into Court, 綾掛け and 平絹掛 were levied from 18 provinces, which indicates that the central government occasionally demanded tribute of this kind. *Uchigi* were worn not only inside the home, but outside as well and were sometimes used to cover the head. They were then called *ikazuki*. Later, however, not only *uchigi* but also *kosode* were sometimes used as *kazuki*, and we can see remnants of this practice throughout Japan today. (6)

2) Women's Travel Attire

The woman drinking water is in travel attire. She wears an *ichimegasa, kaketasuki, habaki*, and*waraji*. This was standard apparel for women going on long journeys on foot. Behind the woman is a roadside shrine. It is a small one with a wood-plank roof, a *hei* in front, and a wooden *imigaki* to the side. Also, in front of the shrine a stone has been placed, but its relation to worship is unclear. (7) Shrines like this were common at crossroads, and they were apparently for worship of the road gods. (8)

III 考 察

(1)

早速一行目で二つの問題にぶつかり，そのいずれも本プロジェクトの全体的方針にかかわる問題である．

先ず，「袿」をローマ字で表記した場合，Hepburn 式で「uchigi」にするか，それとも「utigi」にするか．前者は一般向きで，後者は日本語を学んでいる読者にとって馴染みがある表記である．ど

ちらでもいい，という考え方もあろうが，より大きな問題に関連している．つまり，どういう読者を想定して英訳するのか．もし日本民俗学などの研究者を主な読者層と想定すれば，日本語の一定の知識を既に有しているであろう．ならば，そもそも英訳を必要としないのではなかろうか．逆に，日本語が出来なく，日本研究者でもない「一般読者」層なら，『日本常民生活絵引』に関心を示すものは一体何人いるであろうか．

もう一つの問題は uchigi, kosode, hakama, takaashida などのような単語の扱いである．当然ながら，原作は日本人読者向きなのであって，これらのような単語の詳しい説明なしで作成されている．日本の生活文化に関する知識が少ない海外読者のために，原文にない説明記述が必要になる．uchigi などの定義をどのように載せるか．全 5 巻にわたって，同じものが何度も現れる．テキストの中で最初に出るときのみ載せると意味を再確認したりするのに大変不便である．出るたびに改めて定義を載せると，くどくなるだけでなくページ数が極端に増える．別冊にまとめて，一種の「和英常民文化辞書」を用意すると，常に 2 冊を広げて使用しなければいけないので，使い勝手が悪いであろう．ならば，書物の形ではなく，CD-ROM バージョンの可能性を探ることが妥当であろう．

(2)

原作の解説では，「このような服装は当時の女たち一般の外出時の服装であったと見られるのである」となっているが，絵では「一般」というよりむしろ上流階級の女性にみえる．日本の読者なら，「当時の貴族の女たち」と理解される個所であるが，海外の読者にはそう解釈できる予備知識があるとは言い切れない．

実は，このような問題は『日本常民生活絵引』に頻繁に見受けられる．しかし，原文では不正確な記述や不十分な説明があっても，その全体的な史料価値が依然として備わっている．解説の正確さについて判断できない海外読者のために不正確，不十分な解説をそのまま英訳していいかどうかは検討する必要がある．

(3)

漢字の読み方を定めることが日本語による学問の基本的作業の一つといえよう．しかし，日本語が出来ない者にとって，特別な関心がない限りそれほど漢字の読み方そのものが重要な情報ではないケースが多い．そもそも漢字を読めなければ，「袿 was read uchigi」という情報があってもぴんと来ないであろう．『日本常民生活絵引』には，こういった個所が数多く見られる．英訳を刊行するにあたって，背景説明を足しながら「完訳」をはかるか，それとも海外読者にとって必要な情報とそれほどでない情報を見極め，適度に省略しながら訳するかの方針を決めることが要求されるであろう．

(4)（5)

上記（1）では，uchigi のように物の定義を載せることについて触れたが，日本史上の「できごと」に関する説明を提供することも必要となる．例えば，『和名抄』はどういう書物か，「近世」(early-modern period）はいつからいつまでの時代をさすかなどの説明がないと理解しづらいであろう．問題は親切な説明を加えれば加えるほど既に分量の多い書物が膨大なものになることである．

(6)（7）(8)

『日本常民生活絵引』が初めて刊行されてからかなり長い年月がたっている.「その遺風は今日も各地に見られる」のような指摘は今となって必ずしも有効ではない．また，学問の発展に連れて，(7)と（8）のようにはっきりしていなかった情報は現在においてより確かなものになっているケースが少なくない．原文の記述をそのまま訳するか，それとも現在の学問に照らしながら改正するかも編集方針にかかわる重要な判断であろう.

その他

これだけ分量の多い書物を英訳するには，複数の翻訳者に依頼することになるであろう．全員が日本文化史の専門家であるとは限らない．それぞれの理解が正しいかどうかを確かめ，また，それぞれの文体を統一させたりする編集機能が必要であろう.

IV　提　言

たった 2 ページだけの訳であるが，かなりの宿題が出た．最後に，いくつかの提言を簡単にあげ，終わりにしたい.

イ）上記の（1）で記したように，使い勝手，費用などを考え，CD-ROM の形で刊行する可能性を探る.

ロ）より幅の広い読者層を獲得できるよう，原文の解説だけでなく，海外の読者の関心に応じて，「書き下ろし」の解説も考える．明らかに不正確な記述を訂正する.

ハ）費用節約と翻訳者の数を減らすため，『日本常民生活絵引』の「ダイジェスト版」英訳をはかる.

（事業推進担当者）